

市長の窓

しげ のぶ  
滋宣の

ぼう ちゅう かん



イラスト  
小熊真二さん

あん ちゅう めい  
忙中開あり暗中明あり”

その 32

さくらしへふ  
～桜薬降る～

例年になく長い、雪深かった冬が終わり、ようやく桜の季節になりました。

この広報が皆さんのお手元に届く頃には、もう桜が散っているでしょうか？

桜の花びらが散った後、萼に薬がついたまま残っています。その真っ赤な薬が、雪が舞い落ちるよう、雨が降るようにこぼれて落ちることを「桜薬降る」といいます。桜の木の下一面に絨毯を敷き詰めた様な景色はきれいなものです。

花の美しさを愛でることはありますが、薬まで鑑賞の対象にするのは、桜が日本の国花で、古来から、国民に特別賞美されてきた花だからでしょうか、日本人の優れた感性でしょうか。

さくらしへ降る歳月の上にかな　(草間時彦)

能代市長 齊藤 滋宣



観光案内所のオープニングセレモニーにて  
(4月23日／能代駅前)